

社会福祉法人秋田県身体障害者福祉協会
指定障害者支援施設秋田ワークセンター
平成26年度 事業実績報告

総 括

自然災害による被害、利用者における大きなトラブルや事故、職員による事故・事件もなく、今年度の事業についてはおおむね計画のとおり実施することができた。

また、収支においても所期の収入及び支出となっており、総じて年間を通じて安定的な経営・運営ができた。なお、グループホームの設立に向け、その資金となる積立金を新たに積み立てたところである。

着実に進んでいる入所利用者の重度化・高齢化への対応は、電動ベッドやユニバーサル食器の導入などを行い計画的に取り組んでいる。併せて、生活介護事業における日中活動の充実にも努めているところである。

景気低迷による発注量の減少、低価格化が続いている就労支援事業では、官公需による受注が少しずつ増えてはいるものの、今年度も大幅に売上を伸ばすことはできなかった。しかしながら機械及び器具は確実に毎年消耗しており、利用者の安全確保のためには必要不可欠なことであるため、今年度も機械の整備、補修などを計画的に行ったところである。

また、ウィンドウズXPのアップデート打ち切り等に伴う、パソコン本体の入れ替えも引き続き行ったところである。

平成26年度の事業実績は次のとおりである。

1 定員及び現員の状況

(平成27年3月31日現在)

施設入所支援事業	利用定員	54名	／	現 員	49名 (男性38名、女性11名)
生活介護支援事業	利用定員	48名	／	現 員	49名 (男性37名、女性12名)
就労移行事業	休止中				
就労継続A型事業	利用定員	10名	／	現 員	8名 (男性7名、女性1名)
就労継続B型事業	利用定員	30名	／	現 員	31名 (男性22名、女性9名)

2 職員配置の状況

(平成27年3月31日現在)

職 種	職員数		担 当 業 務
	26年度末	25年度末	
所 長	1	1	所内の総括、苦情解決責任者、会計責任者
サービス管理責任者	2	2	利用者の個別支援計画、アセスメント、利用計画原案、モニタリング等相談業務及び記録等の確認 (生活介護・施設入所支援事業1名、就労支援事業1名)
事 務 員 (支援員兼務)	3(1)	3	サービス区分の予算・決算の事務処理及び金銭の出納 利用者利用料の請求・精算業務等、職員の給与、福利厚生業務、利用者支援等
生活支援員	10(7)	9(3)	生活介護支援及び日常生活支援、相談業務
就労支援員	8(3)	5	作業支援及び指導、製品管理、営業販売、相談業務
看 護 師	1	1	利用者及び職員の健康管理
栄 養 士	2(1)	2(1)	利用者の給食献立、利用者の栄養管理

調理員	3(3)	3(3)	給食業務
嘱託医	1(1)	1(1)	利用者の検診、医務相談
その他	3(3)	3(3)	給食業務補助
合計	34(19)	30(11)	

※職員数の（ ）の数は嘱託職員・非常勤職員及びパート職員の再掲

3 事業の実施状況

(1) 施設入所支援事業

年毎に確実に入所利用者の重度化・高齢化が進み、それに対応できる事業所として、利用者が安全に、安心して暮らせるよう利用者へのアセスメントやモニタリングに十分時間をとり、利用者のニーズを達成するため関係者で話し合いを行い、個別支援の充実を図った。

また、利用者の身辺自立を妨げないよう考慮した、施設設備の改善を進めるとともに、切れ目のない支援が出来るよう、夜勤者及び日勤者が起床・就寝時、朝・夕の食事前、土日・祭日及び緊急時における様々なニーズに対応するため、申送り等により情報共有化を図り、生活支援の充実に努めた。

更に、職員のチーム化や支援動作の検証を行い、マニュアル化し、支援の格差がなく、職員個々の無駄な動きや重複支援を省くなど、効果的な支援の実施やリクス軽減のための支援体制の整備を行い、利用者が日々、人と人とのふれあいを大切に思う心の助長や、健康管理、食事・排せつ支援及び日々の生活相談や情報提供での充足感を感じられるサービス提供に努めた。

(2) 生活介護支援事業

利用者のニーズに応える多様な創作活動やレクリエーションなど、日中活動プログラムの充実を図り、利用者が望む日々の生活の実現に努め、食事や入浴、排せつの介護、生活情報の提供など、日常生活における個人支援プログラムに沿ったサービス提供に努めた。

更に、身体の機能維持や健康の保持、増進のために理学療法士による機能訓練計画を立て、計画に沿った訓練をほぼ毎日実施するとともに、健康診断、通院・受診及び服薬支援のサービス提供を行った。

食生活の充実のため、配膳や下膳はもちろんのこと、配茶やスプーン、フォーク等についても個人に合った物を準備し支援の充実に努めた。

また、毎月の選択メニューや外食してのバイキング形式の食事への支援も行い、食への楽しみを助長することができた。

季節感を出すために毎月のように行事を開催し、併せて様々な方々との交流が出来るように夏祭りや日帰り旅行、地区運動会、小学校生徒とだまっこ交流会、中学校生徒と学習交流会、クリスマス会などを開催し、四季折々の行事を行うことに努めた。

(3) 就労支援事業

景気の低迷が続き、低価格、短期納入等の顧客の要望は強く厳しい状況が続いており、売上目標 6,600 万円に対し、6,490 万円と 98%の達成であった。今年度の目標は達成できなかったが前年度比 104%と昨年度の売上を上回ることができた。

利用者の工賃及び賃金の総支給額は 18,469 千円で、前年度比の 101%、321 千円の増額となっている。

① 就労移行支援事業

利用希望者がいないため、平成 21 年度から事業を休止している。今年度も利用の申込み者が現れなかったため、引き続き休止とした。

② 就労継続 A 型事業

- ・ 印刷事業の受注先は一般企業からの発注が大半を占めている。平成 25 年 4 月より優先調達推進法が施行され、秋田市役所、労働局、日本政策金融公庫等からの官公需の随意契

約による受注が若干ではあるが増えてきている。その反面、県からの受注は契約内容がマッチングしないため、ほとんど契約出来ない状況である。

また、年賀はがきの印刷に関しては、例年通り既存の顧客に対してダイレクトメールを発送し、受注の確保に努めてきたが、顧客の高齢化や若者の年賀状離れにより受注件数は年々減ってきている。営業面に於いても、当施設の福祉事業に理解のある企業関係、あるいは学校や保育所、地区社協へ会報作成等の情報収集と営業を行っているものの、まだまだ競争も厳しく売上の落ち込みが続いているところである。

- ・ 縫製作業は、高品質よりも低価格が求められており、他社よりも価格が低い事をアピールポイントとしてエプロンや小物類の継続的な受注に力を注ぎ営業を展開して来た。保育所や専門学校等からの継続した受注があるものの生徒数の減少により注文数が減ってきている。
- ・ リサイクル作業は、取引企業や福祉施設、古紙ステーションを利用しての地域住民等からの安定した回収作業ができるようになったが、全体としては回収量、買取価格も横ばいの状況である。

③ 就労継続B型事業

- ・ 軍手作業の受注数は前年並みでほぼ横ばい状態である。しかしながら原料費の値上げが続いており、顧客への製品価格の見直しを行い売上額の改善を図った。また、軍手編み機の劣化に伴い修繕不能な機器があり、繁忙期の納期に遅延が生じている。
- ・ ウェス作業は前年度比8%の売上げ増となっている。
大口の受注先の受注減に伴い落ち込みが懸念されたが、関連企業からの受注は今のところ継続できている。
- ・ 売店「ハートランド」は、主力商品の食品や飲み物類の他に季節的な商品として、果物の販売や施設入所支援事業の利用者からの買い物注文等を行ったところ、集客効果があり昨年度より若干売上の増に繋がっている。
- ・ 清掃作業は、施設内の清掃を受託し、現在7名が従事しており、安定した収入源となっている。また、入所利用者の快適な環境づくりにも大きく貢献している。

4 施設の整備状況

① ゴミステーションの移設・改修

年数が経過し、劣化が著しいため、外装及び内装を一新し、きれいで清潔感のあるものに改修した。また、傾斜地に設置していたため、安全を確保するため平地へと移設した。

② 照明のLED化

施設内の蛍光灯や外灯の水銀灯を、電気使用量の少ないLED照明に付替える工事を行った。

③ 談話室エアコンの付替え

談話室の日中や夜間の生活を快適にするため、冷房機能の高い大型の空調機器に付替えをした。

④ 掲示版の設置

地域との交流を深め、施設からの情報を提供するため、施設の入り口に掲示版を設置した。

5 機器の購入及び設備の整備状況

(1) 生活介護支援事業

① 照明のLED化

施設内の蛍光灯を電気使用量の少ない、LED照明に付け替える工事を行った。

② レクリエーション用具の購入

日中活動を充実するため、新たに4種類のレクリエーション用具を購入した（寄付金を活用）。

③ ユニバーサル食器の導入

重度障害者の食事をより自立したものにするため、ユニバーサルな食器を購入した。

④ 電動ベッドの導入

利用者の安全を確保するため、介助バー等が付けられる電動の介護ベッドを3台導入した。

⑤ 移乗リフトの購入

利用者の移乗の安全及び職員の怪我予防のため、床走行式移乗電動リフトを購入した（寄付金を活用）。

⑥ 利用者用パソコンの購入

インターネットの閲覧、ゲーム遊びとして利用者が自由に利用できるパソコンを2台購入した（寄付金を活用）。

(2) 就労継続支援事業

① 4色印刷機の整備

シノハラ製4色印刷機のトラブル改善のため、随時部品交換等の整備を行った。

② 利用者用パソコンの購入

就労移行支援事業利用者の訓練用としてパソコンを2台購入した（寄付金を活用）。

③ 就労作業機器購入

品質と作業効率の向上のため、ミシン目入れ機械、編集用パソコン、自動糸切りミシンの導入を計画したが、商品価格の折が付かなかった等の理由により売上額が伸びなかったため、導入を見送った。

6 給食提供の状況

(1) 選択メニュー

楽しい食事、期待感のある食事を提供していくことをテーマとして、食事メニューに変化をつけながら年24回実施した。

(2) 利用者の健康づくり

年4回の食事摂取調査・嗜好調査を実施し、支援員、看護師と連携しながら、個別の身体状況、栄養状況を基に栄養ケアマネージメントを作成し、食生活を通じた健康管理と支援の質の向上を図った。

また、薄味、食べやすい食事提供により生活習慣病の予防と健康の維持増進に努めた。

(3) 福祉弁当

下北手地区社会福祉協議会から委託を受けて、地域の独居老人に対して月1回(9~12食)、年8回(75食)(夏季間4カ月は休止)の福祉弁当を作り提供した。

7 健康管理の状況

(1) 定期健康診断、定期健診等

健康管理のために年2回の定期健康診断、月2回の嘱託医の診察、月1回の体重測定、週1~2回の血圧測定などの定期健診の充実を図り、疾病の早期発見・早期治療に努めた。

また、利用者の96%の人は何らかの疾病を抱え治療中であるため、定期通院、内服管理の徹底に努めた。

(2) インフルエンザ予防

インフルエンザ予防のために、予防接種を一部施設負担で希望者(利用者73名、職員29名)に行った。結果として罹患者はゼロであった。

(3) ノロウイルス等感染症予防

所内での感染を防ぐために、普段の手洗い、うがいを励行し、朝の会やポスターの掲示等を通じて清潔感の助長に努めるとともに、所内研修において発生時の対応についての手順、注意事項を確認した。結果として罹患者はゼロであった。

(4) 機能訓練の実施

平日の月曜日から金曜日の、午後1時半から午後3時まで、理学療法士の作成した個別プログラムに添った機能訓練を実施し、身体機能の保持増進を図った。

8 衛生管理の状況

(1) 寝具類の交換及びシーツ交換

寝具類（枕、敷・掛布団、毛布等）の交換を年1回、シーツ・カバー類（シーツ、布団・毛布カバー）は毎週1回行い、寝具類の清潔に努めた。

(2) 居室の清掃及び浴室、便所等の清掃

利用者の居室清掃（荷物の整理整頓及び床や隅々の清掃ワックスがけ）を年1回以上行い、居室の衛生管理に努めた。また、共通部分である便所、浴室、脱衣室、廊下、多目的ホール等の清掃及びワックスがけを行い、清潔に努めた。

(3) 入浴

一般入浴を月・木曜日の午後1時から午後5時まで行い、7月～9月の期間は土・日もシャワー浴を行った。

介護及び支援入浴は火・金曜日に行い、女性は午前10時15分から午前11時30分まで、男性は午後1時30分から午後3時までとした。その他、入浴の無い日は清拭等も行いながら、身体の衛生保持に努めた。

9 災害事故防止等訓練の状況

(1) 重度障害者への防災上の配慮

- ① 同室者（2人部屋）への配慮として、できるだけ歩行の困難な人同士、聴覚障害者同士等の組み合わせにならないよう配慮し、やむを得ず同室にする場合は、緊急呼出ベルの設置や、隣室者からの協力や職員への通報を密にするなどの配慮をした。
- ② 障害の程度によっては避難路の確保に努めた。歩行の困難な人、目の不自由な人等は避難口に近い居室にするなどの配慮をした。
- ③ ベッドで寝たままの状態での避難させることができるよう工夫をした。
- ④ 予備の車椅子を避難口に設置した。
- ⑤ 浴室・脱衣室から容易に避難できるよう工夫をした。

(2) 事故や災害防止と安全のために

① 防災計画

きめ細やかな消防・防災計画の整備と万全な備えを行い、予防に重点を置いた取り組みを実施し、設備の点検・管理や整理・整頓を徹底した。

② 避難訓練

所轄の秋田市城東消防署の指導を得て、日中・夜間（想定）も含めた総合訓練（通報、初期消火、避難、オイルパン使用の消火器操作訓練等）や、地震想定での避難訓練を行うと共に、災害を未然に予防する防火思想の普及・徹底を図った。

また、災害時や停電時における安全対策や機械器具、装置の操作手順の周知に努めた。

③ 交通安全教育講習

朝の打ち合わせ会や朝礼時に欠かさずに交通安全教育を実施し、10月には利用者及び職員を対象に交通安全意識の高揚と事故防止のため、交通安全研修会を開催した。

また、利用者、職員の車両通勤者を対象に秋田東地区安全運転管理者協会主催の「無事故

・無違反 100 日運動」に 5 チーム 25 名が参加し、交通安全意識の啓発・事故防止に努めた。

10 就労支援事業の研修

事業名	研修日	研修場所	参加者数	備考
就労 A・B 型事業利用者・家族会合同研修	6 月 27 日（金） ～28 日（土）	「岩手ヤクルト工場」視察 鬼の館 見学 田沢湖芸術村 観劇	A 型 4 名 B 型 14 名 家族会 1 名	宿泊 ホテル志戸平

11 就労支援事業の推移

(1) 事業収入額の推移

(単位：円)

年度／事業	就労移行支援 (内部加工)	就労継続支援 A 型 (雇用型)	就労継続支援 B 型 (非雇用型)	年度総計
平成 21 年度	0	49,599,620	14,479,259	64,078,879
平成 22 年度	0	49,306,238	14,255,375	63,561,613
平成 23 年度	0	46,133,446	15,798,352	61,931,798
平成 24 年度	0	45,978,104	15,528,345	61,506,449
平成 25 年度	0	46,640,297	15,798,342	62,438,639
平成 26 年度	0	49,008,769	15,954,449	64,963,218

(2) 工賃支給実績額の推移

(単位：円)

年度／事業	生活介護	就労移行	就労継続 A 型	就労継続 B 型	年度総計
平成 21 年度	584,290	0	12,955,686	3,322,614	16,862,590
平成 22 年度	540,480	0	12,959,005	3,692,920	17,192,405
平成 23 年度	579,620	0	12,492,202	4,500,960	17,572,782
平成 24 年度	517,580	0	13,279,468	4,339,550	18,136,598
平成 25 年度	519,240	0	12,545,794	5,083,820	18,148,854
平成 26 年度	432,320	0	13,113,095	4,924,270	18,469,685